



いのちの言葉



偉大なご計画



使徒言行録 1・8 を読んでみよう。

「聖霊があなたがたの上に降るとき、あなたがたは力を受ける。そして、私の証人となる。」

使徒たち、そしてすべてのイエスの弟子は「証人」となるよう世に送られました。

証人となるとは どういうことでしょうか？

それは、私たちが
イエスの生き方を自分のもの
にするということです。

例えば、日々、家の中、学校、遊ぶとき、出会う人たちを温かく迎え、物や気持ちを一緒に分かち合うこと。自分の胸の内に、神様の**偉大なご計画**、つまり「普遍的兄弟愛」を秘めながら。

どうすれば聖霊に気づき
その声を聞き
分けられるの？

「聖霊は私たちの中に住んでおられます。光で照らし、導いて下さいます。真理の霊なので、イエスの言葉の意味を教えてください、今も生きることでできるものだと分かせてくれます。智慧のすばらしさに私たちの心を魅きつけ、何をどう話すべきか教えてくれるのです。

**力ある霊なので、
私たちに勇気と力を
与えてくれます。福音に
従って、いつも真に正しい
ことを証しできるようにと。**

心の中に神様の愛を保つなら、遠くの人にも愛を届けることができます。私たちが見つけた心の宝物を、きっとたくさんの人に分かち合えるでしょう。『地の果て』とは、地理的の遠いことだけではありません。私たちの近くにも、福音を知る喜びにまだ出会っていない人たちがいるのでは？ 私たちの証しはそこにも届けなければなりません。」¹

キアラ・ルービック



一致をめざす少年少女 (T4U)
国際事務局による編集済

1 2005年6月のいのちの言葉より

行動に移してみよう



与える文化 分かち合う文化 をめざして

たとえば、
クラスのみならず、
平和やエコロジー
のための何かプロジェクト
を企画してみませんか？



僕らの経験：



転校生がクラスに来ると、私はいつも、もし自分が同じ立場になったらどんな気持ちになるかな、と考えます。そして、その子の身になって近づくようにします。

新しい転校生が入ったので、学校の中を案内し、友だちにも紹介しました。始めのうちは、あまり自分のことは話さなかったけど、少しずつ打ち明けてくれるようになりました。でもその内、その子はちょっと特別な、違った子だというのに気がきました。

私のペンケースからいろいろとったり、授業中にジャマをしてくるようになりました。勉強したかどうかを見せないといけないときには、たくさん質問をしてきて、助けてほしいと言ってきました。

最初は、愛するために助けていました。質問の一つひとつ答えてあげて、私のノートをコピーしてあげたりしました。でもそのうち、私をちょっと利用していることに気づきました。がっかりして、辛く感じました。



ある日、がまんの限界が訪れました。技術の授業で、ひどくジャマをしてきたので、もう耐えられなくなり、わたしは怒りました。その子の私への態度で気に入らないことを全部吐き出しました。

彼女は泣き出し、自分は誰からも愛されていないと言い、私のことも本当の友だちなんかじゃなく、自分をだましたんだ、と言いました。もう死にたい、と。

泣きながら、初めて転校してきたわけを話してくれました。両親も、祖父母も別れてしまったこと。前の学校では、みんなとケンカしたこと。それで、うちの学校に移され、家族のいない子どものための施設に入れられたこと。

私は心が本当に痛みました。彼女の行動は、愛にとっても飢えているため、誰かから愛されたいためだったと分かりました。

(スロベニアの K. より)

